那珂川町馬頭広重美術館友の会ニュース〈第16号〉

風の色

「都南八景之内　市の倉」高橋松亭（個人蔵）

都南八景之内　市の倉

「新版画による風景画展 ―美しい日本の風景―」

静かな夜更けにしんしんと降り積もる雪。白一色の世界にたくさんの赤い椿が顔を覗かせ、抒情的な美しい雪景色を創り出しています。

「都南八景之内　市の倉」は、高橋松亭が大正十一年に制作した作品です。松亭は浮世絵が衰退した後に提唱された「新版画運動」に初期から関わった画家で、伝統的な木版画の技術を生かし芸術性の高い版画を多数創出しました。「松亭の版画作品は普通の肉筆より手間がかかるが、摺り上がると肉筆より色彩の精美が現れ、欧米各国でも松亭の作品を希望する人が多かった」と高い評価を受け、明治時代末から関東大震災までに五〇〇図以上制作したといわれています。

図はひなびた農家の冬景色ですが、ここは東京都大田区の市ノ倉、現在の池上付近にあたります。大田区は日本でも有数の高級住宅街である田園調布や、「蒲田行進曲」で知られるにぎやかな蒲田がある地域ですが、大正時代は絵に描かれているような、のどかな田園地帯が広がっていました。松亭は神田から市ノ倉に移り住み、そこで作画活動を行っていたことが知られています。

平成二十一年一月十七日(土)から始まる「新版画による風景画展 ―美しい日本の風景―」ではこの「都南八景之内　市の倉」をはじめ、美しい日本の風景を描いた新版画をご紹介します。

本格的に寒い冬がやってきましたが、展覧会ではなつかしい日本の景色に囲まれ、きっと心が暖まることでしょう。

学芸員　長井　裕子

東京湾に注ぐ川 その3
「多摩川 六郷川」

広重の浮世絵に「六郷川のわたし」「小金井堤の桜」などの絵が登場します。これらは東京都と神奈川県の境を流れる多摩川のことなのですが、もっと詳しくしりたくて、学芸員の市川さんのＩＮにより資料を頂戴し、整理してみました。

「多摩川」は、山梨県の笠取山を水源として丹波川となり奥多摩湖に注ぎ、多摩川となって東京の西部を流れ、川崎市と羽田空港の間で東京湾に注ぐ延長一三八キロメートルの大河です。

「六郷」とは鎌倉時代、永富・大森・蒲田・堤方・原・八幡塚の六つの郷を「六郷保」としての領地であったが、時代の流れの中で領地替えがあり、江戸時代にさらに近辺の村を含めて「六郷領」として定められた。したがって、「六郷」は、六つの郷を指すのではなく、古来より広い領域を包括的に指す地方名として使われたそうだ。

「六郷川」は、多摩川の下流部分の呼び方で多摩川のうち六郷領に接して流れる部分を言い、世田谷領との境あたりから河口までの範囲を呼んでいる。また、当時は「六郷の渡し」、「羽田の渡し」があったが、「東海道」の整備とともに「六郷の渡し」が著名になった。

「六郷の渡し」は、六郷という村にある渡しという意味ではなく、それが西方から「六郷領」に出入する入口にあったことで自然にそう呼ばれるようになったと考えられる。

箱根駅伝で話題になる「新六郷橋」は、「上り橋と下り橋」があり上下とも六車線で昭和六十二年に完成した。六郷川に最初に橋が架けられたのは慶長五年（一六〇〇）、徳川家康によって架けられた。以後、架け替えがあったり、洪水で流失したりして元禄元年の洪水流失を最後に架橋は断念され、以後百八十六年間は、渡し舟による川越えが行われるようになった。

大正十四年に本格的なコンクリート製の六郷橋が竣工し、国道1号線として交通の要所となった。

「玉川上水」は、人口が増加していく江戸庶民の生活を支えるために承応二年（一六五四）、武蔵野を掘り割って江戸城や下町まで水を供給した用水路で、現在の地図から判断すると羽村市の羽村堰から取水し立川市や小金井市を経て井の頭公園に貯水され、神田上水として市中に供給されていたことになる。

「小金井堤の桜」は、玉川上水の両岸の堤約一里にわたって千本余の桜が植えられた。元文二年（一七三七）、将軍吉宗の命を受けた代官川崎平右衛門によって植樹され、小金井橋を架けて遊覧に備え江戸庶民の憩いの場とした。

（広重に描かれたのは約百二十年後のことになるので枝先が枯れている。）

今でも五日市街道沿いに「桜堤」の地名が多く使われている。

（ボラ火曜班　磯）

「富士十二景　坤　六郷河渡舟」歌川広重

季節の展示

梅雨明けの７月中旬、美術館入口に「野の花盆栽」（写真右）が飾られ、暑い中の来館者にひと時の涼を与えてくれました。この盆栽、天生目優さん（久那瀬）の作で、野山の苔や木賊（とくさ）などでアレンジされたものです。

また、馬頭菊友会（石沢弘次会長）による平成20年度菊花展は11月1日から9日間広重街道で開かれました。会場には愛情込めて育てた直幹や懸崖など約100鉢が並べられ、来館者の目を楽しませてくれました。

平山郁夫シルクロード美術館など見学

◆友の会見学会◆

友の会の見学会は九月十七日・十八日の一泊二日、山梨県北杜市、山梨市方面に会員三十三名が参加して行われました。

初日の見学地は平山郁夫シルクロード美術館。シルクロードを旅した平山画伯の東西文化の交流や仏教伝来などをテーマとした数々の大作に、訪れた会員は暫し見入っていました。なかでも「古代ローマの遺跡　フォロ・ロマーノ」は、日本初公開とあって、そのスケールの大きさに圧倒されたようです。

平山郁夫シルクロード美術館前で

二日目は山梨県立美術館を訪れました。同館では、来館者の投票による収蔵作品の展示が行われており、ジャン＝フランソワ・ミレーの「種をまく人」や「落ち穂拾い、夏」のほか、シャルル＝エミール・ジャックやギュスターヴ・クールベの作品など、同美術館が所蔵する名画を鑑賞することができました。

参加した黒崎昇さん（那須塩原市）は「美術品の収集や美術館の多さなど、山梨県の芸術に対する力の入れ方に感心した。これからも積極的に参加し、本物の作品に触れ、見る目を養っていきたい。」と話されていました。

馬頭広重美術館がTV放映

NHK教育テレビの美術番組「ミューズの微笑み～ときめき美術館～」の収録が十二月五日から九日までの五日間行われました。

同番組は、"美術館の魅力を分かりやすく紹介しながら、その楽しみ方を伝える"という趣旨で十月から十二週シリーズで放送されているもので、当館が最終週となります。

番組では、音楽家の財津和夫さんをナビゲーターに、建物や青木コレクション等の紹介のほか、当美術館を構成する「八溝杉・烏山和紙・芦野石」が映像で紹介される予定です。ぜひご覧ください。

番組撮影の様子

【放送日】
12月27日(土)　PM11時～
　PM11時30分　NHK教育
【再放送】
1月3日(土)　AM5時～
　AM5時30分　NHKBS2
1月8日(木)　AM0時45分～
　AM1時15分　NHK教育

会員募集中

馬頭広重美術館友の会は、美術館事業への協力や支援のほか、会員の教養、親睦を深める活動を行っています。
年会費は、

- 一般会員　3,000円
  （学生は1,500円）
- 特別会員 10,000円
- 法人会員 30,000円

で、それぞれ特典が付与されます。

問い合わせ
友の会事務局
☎0287-92-1199

教職十年目研修で体験して――

県立高根沢高校教諭
武石　弥生さん

教職十年目研修の「社会体験等研修」で八月八日から十日までの三日間、馬頭広重美術館で研修させていただきました。

普段高校生という限られた年代と接しているので、幅広い年代の方と接することができたのは、やはりとても新鮮でした。どのような方にも気持ちよく利用していただこうという、美術館の職員の方々の情熱とその対応力は勉強になりました。そして十年目という節目を迎えた自分自身へのとてもよい刺激になりました。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

今後の展覧会予定

企画展

浮世絵で見る忠臣蔵の世界展

『仮名手本忠臣蔵』は、『義経千本桜』『菅原伝授手習鑑』と共に歌舞伎の三大名作のひとつといわれています。四十七士による吉良邸の討入りが物語のクライマックスですが、人形浄瑠璃としての初演は奇しくも赤穂事件から四十七年目の寛延元年（一七四八）のことでした。

『仮名手本忠臣蔵』は単なる忠義や武士道の物語ではなく、時代・世話・道化・愁嘆などを巧妙に盛り込んだ構成となっていたため、いつ上演しても大当たりをとりました。現在でも、歌舞伎などの古典芸能はもちろんのこと、「忠臣蔵」ものドラマや映画が数多く作られています。特に、年末年始の忠臣蔵のドラマ放送はお正月の定番と言えるでしょう。

「忠臣蔵　十一段目一　夜打押寄」歌川広重（当館蔵）

江戸の庶民に愛された『仮名手本忠臣蔵』を描いた浮世絵も、もちろん多数制作されました。当館の青木コレクションにも、忠臣蔵をテーマにした作品が含まれています。「忠臣蔵」ものの浮世絵は画題の取り込み方や構成上の趣向に千変万化の多彩な表現を見せ、我々を楽しませてくれます。本展では国貞・国芳・広重ら歌川派の絵師が手がけた忠臣蔵の世界を描いた作品を紹介します。

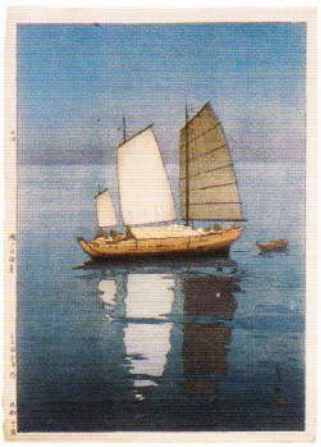
●会期／平成二十年十一月二十九日（土）～平成二十一年一月十二日（祝月）
●休館日／十二月二十七日から平成二十一年一月二日、五日

企画展

新版画による風景画展
―美しい日本の風景―

江戸時代に興隆を極めた浮世絵風景版画は、西欧から導入された写真機や石版画などの普及により明治時代には衰退しました。しかし、大正期になると伝統的な木版画が見直され、版元渡邊庄三郎により「新版画」が提唱されます。

「新版画」は、浮世絵と同様に版元のもと、絵師、彫師、摺師の分業体制により作品を制作するもので、画題も浮世絵で従来から取り上げられていた役者、美人、風景などが扱われました。橋口五葉、伊東深水、山村耕花、川瀬巴水など明治以降に生まれた作家達が参加し、より芸術性の高い版画作りが目指されました。



「瀬戸内海集　帆船　午後」吉田　博（当館蔵）

本展では、新版画のうち美しい日本の景色を描いた風景画を展示します。葛飾北斎や歌川広重の名所絵とはひと味違う風景画をお楽しみ下さい。

●会期／平成二十一年一月十七日（土）～二月二十二日（日）
●ミュージアムトーク（展示解説）／当館学芸員　一月三十一日（土）午後一時三十分～
●休館日／一月十九日、二十六日、二月二日、九日、十二日、十六日

企画展

青木コレクション展
―青木藤作の思い―

青木コレクションは、熟田村（現さくら市）狭間田に生まれた実業家の青木藤作が大正から昭和初期にかけて収集されたものです。

青木コレクションというとまず広重の肉筆浮世絵や浮世絵版画が思い浮かぶかも知れませんが、コレクションの内容はそれだけではありません。青木藤作が生涯交流を続けた当時の日本思想界のリーダー徳富蘇峰の書、川村清雄の洋画、久保田米僊の日本画、また刀剣類など内容は多岐にわたっています。

本展では青木コレクションより抜粋した名品を紹介します。青木コレクションの多彩さ、そして青木藤作がコレクションに託した思いを感じていただければ幸いです。

●会期／平成二十一年二月二十七日（金）～四月十二日（日）
●ミュージアムトーク（展示解説）／当館学芸員　三月十四日（土）午後一時三十分～
●休館日／三月二日、九日、十六日、二十三日、三十日、四月六日

「王子之三瀧（三幅対）　歌川広重（当館蔵）

那珂川町馬頭広重美術館友の会ニュース　第16号
平成20年12月19日発行●編集発行／馬頭広重美術館友の会
〒324-0613　栃木県那須郡那珂川町馬頭116-9
TEL 0287-92-1199　FAX 0287-92-7177
http://www.hiroshige.bato.tochigi.jp/